

第14号《最終号》

浮金小だより



発行：令和2年3月23日（月）

文責：浮金小学校長 松崎 健一

本日、令和元年度の修・卒業式を本校体育館で行いました。今年度で閉校となりますので、浮金小学校での最後の修・卒業式となります。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、学校は3月4日より臨時休業となり、子どもたちは不安を抱えたまま式に臨んだことと思いますが、練習をしていないと思わせない立派な態度を示してくれました。よく頑張りましたので褒めてあげてください。

式中「はげましの言葉」として、校長が今年1年間を振り返りながら子どもたちにお話をしましたので、その全文を掲載し、浮金小学校だより最終号といたします。保護者の皆様や地域の皆様には、本校の学校教育に対し惜しみないご協力をいただきました。大変お世話になりました。ありがとうございました。



～はげましの言葉～

桜のつぼみもふっくらと、にわかには春色の深まりを感じる今日この頃、本日は大和田町長様をはじめ、ご来賓の皆様においでいただき、令和元年度小野町立浮金小学校の卒業証書授与式ができますこと心より感謝申し上げます。

6名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、1年生から5年生までの32名の皆さん、それぞれの学年の修了おめでとうございます。

はじめに、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、3学期が途中で終わり、お休みとなってしまいました。この時期だからこそやりたかったこと、間もなく閉校となるからこそ児童の皆さんとやりたかったことができず今日の日を迎えました。皆さんも、いろいろな戸惑いがあったかと思いますが、本日、いつものように元気な皆さんと顔を合わせることができたこと大変嬉しく思います。

さて、校長先生は、第1学期の始業式で、皆さんに次のような話をしました。

今年も「気づき・考え・実行する」を皆さんに投げかけ続けます。6年生をリーダーとして、皆で、元気で明るい自分たちの浮金小学校を創っていきましょう。

永い歴史に幕を下ろす浮金小学校の最後の1年を、こんな学校にしたいなど、校長先生の思いを皆さんに伝えたんです。

それでは、校長先生が感じた、皆さんの元気で明るい姿を紹介します。

まず、朝のあいさつです。「おはようございます」は勿論ですが、皆さんはそれでは終わりませんでした。校門前で振り返り、見守り隊の方に「ありがとうございました」と、毎朝あいさつしていました。少し遅れてしまい一人で登校しても、交通安全母の会の方や、町職員の方にも、それができていました。それを見て、やらされているのではなく、感謝の気持ちを素直に表現できるようになったんだと感じました。

毎日の授業では、めあてに向かって諦めずに考える姿がたくさん見られました。時には競い合って手を挙げ自分の考えを発言したり、時には隣同士でグループを作り頭をつきあわせてじっくり話し合ったりと、意欲的に共に学び合う姿がいつも見られました。

縦割り班活動もたくさんありました。そして、そこには必ず学年の枠を超えて互いを思いやり、助け合い協力し合って楽しく活動する皆さんの笑顔がありました。当たり前のように上学年が下学年を導く姿を見るたびに、これが浮金小学校の強みだなと誇らしく思いました。

このように、日々の学校生活の中で、皆さんの生き生きと輝く姿がたくさん見られました。まさに、「元気で明るい自分たちの浮金小学校を創る」ことができたと思います。1年間、よく頑張りました。

そして、この頑張りの中心となり引っ張ってきたのが、校長先生の目の前に座っている6名の卒業生の皆さんです。ここで、校長先生が感じている卒業生一人一人について話します。





《Sくん》

ここぞという所で力を発揮するのがOくんでした。5年生で町水泳大会リレーで優勝したときに見せたガッツポーズが忘れられませんが、運動面ばかりではありません。「校歌を訪ねて」というテレビ取材のインタビューのときも、先月行われた後期児童会委員会全体会で質問されたときも、理路整然と受け答える堂々とした姿に頼もしさを感じました。まだまだ自分でも気づいていない力を秘めています。いつでも全力を出せるよう、さらに高い向上心を持って進みましょう。



《Rくん》

登校時に拾ってきた菓子袋のゴミを置くときに、風で飛ばされないように石をのせたり、会議室の長机の縦横を整頓する際に、誰も気づかない脚のストッパーを一人で全てチェックしたりと、Rくんならではの気づき・考え・実行する姿に感心しました。違った観点で物事を見ることができる感性を持っています。それを大切にして、自分が正しいと思うことをどんどん実行していきましょう。



《Jくん》

今年度は、鼓笛の主指揮を務め浮金小鼓笛隊を牽引しました。町の小学生陸上記録会ではジャベリックボール投げで優勝しました。これまで、勝負事では二番手になることが多く何度も悔しい思いをしていたのを知っていたので、優勝した瞬間は校長先生もとっても嬉しかったです。悔しいという感情は大事です。それをバネに、これからも新しいことに果敢に挑戦していきましょう。



《Yくん》

何か困ったときに、皆から頼りにされていたのが侑音くんです。こんなことがありました。校庭のベンチ脇でスズメの子どもが亡くなっているのを見つけ騒いでいる子どもたちをよそに、Yくんは、移植ベラを持ってきて校庭の隅に埋めてくれました。周りを見て冷静に判断し、具体的に行動に移すことができるYくん。さすがです。



《Yさん》

優しさ溢れる行動を何度も見かけました。登校班では1年生の後ろを歩き、横断歩道を渡る際には、いつもランドセルに手を添えてあげていました。高柴山遠足では、疲れが見える下学年の子に、しゃがんで目線を合わせて言葉をかけていました。また、あまり表には出てきませんが、見えないところでしっかり努力をしている子だなと思います。Yさんは、浮金小の優しくて頑張り屋のお姉さんでした。



《Sくん》

「気は優しく力持ち。」Sくんには、この言葉がぴったり当てはまります。やんちゃな下学年の子どもたちが、Sくんを先頭にきちんと一列になって歩きます。こんなことがありました。11月19日の朝、郡山にお住まいで実家が小野町にある方から電話をいただきました。

「集団登校する先頭の5・6年生ぐらいの子が、車道にあった大きな自動車の部品を、わざわざ班の列を止め待つように指示して、自分だけで拾いに行っていました。自動車がよけて走るような大きな部品だったので、片付けてくれたんです。その姿を見てとても嬉しくなりました。」と。勿論、Sくんのことです。気づき・考え・実行する頼もしい姿に、校長先生も嬉しくなりました。

卒業生の皆さんには、最後の浮金小学校創りのために、たくさん助けてもらいました。感謝しています。ありがとうございました。六人六様の個性が集まり、6年間をかけて、バランスのよく取れたとてもいい仲間になりました。

それでは、卒業生の皆さんへ、校長先生からエールを送ります。

四月からは、自分たちで新たな小野中学校を創っていくという気概を持ちなさい。

大きなことや目立つことをしなさいという訳ではありません。

今ある浮金小学校を築いたように、自分たちが創る小野中学校を描き

自ら課題に気づき、自らよく考え、失敗を恐れずに仲間と力を合わせて実行することです。

その積み重ねが、自分たちの小野中学校を創るということです。

それは、自分が描く夢に挑戦することにもつながるはずです。

期待しています。



最後になりましたが、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業誠にありがとうございます。子どもたちは、ご覧のように立派に成長され、閉校する浮金小学校の最後の一年を見事に築いてくれました。これもひとえに、ご家庭での深い愛情の賜であると共に、PTAの皆様、見守り隊の皆様、地域の皆様の、惜しみないご協力があったからでございます。教職員一同を代表し厚く御礼申し上げます。

以上で、新しい門出をお祝いして、私からの「はげましの言葉」とさせていただきます。本日はご卒業、そして、それぞれの学年の修了、誠にありがとうございます。